クラリネットを吹く男

小川未明

青空文庫

李さんが、この町にすんでから、もう七、八年になります。いまではすっかり町の人としたしくなって、えんりょ、へだてがなくなりました。工場へつとめ、朝出かけて晩に帰ってきます。

休みのときは、よく近所の源さんのところへあそびにいきました。この二人は、わけて仲がよかったのです。源さんは会社につとめて、ごくほがらかな性質でありましたが、李さんはそれにくらべて口数の少ない、うちきなところがありました。

二人は、顔を見ると、将棋をさしました。源さんのほうが、いくらか李さんよりは強いようでした。しかし、李さんは、音楽にも趣味をもっていて、ラジオで、歌を放送するときなど、将棋をさしながら、自分の駒がとられるのも知らず、歌のほうに気をとられていました。あるとき、朝鮮の歌が、若い女の人に歌われました。

李さんは、目に涙をためて聞いていました。

「李さん、あれはどんな歌かね。」と、源さんがきくと、李さんは、さびしく笑って、

「鳥、鳥、どこへいく、あちらの山へというような歌ですよ。」と、答えました。

「ははあ、どこの国も、子守唄は、かわらないんだね。」

「そうですとも、私、子供の時分に、おばあさんが、よく歌ってくれました。」

「李さんは、クラリネットが、うまいそうだが、ひとつきかせておくれよ。」と、源さんがいいました。

「私の生まれた町へも、あめ屋がよくクラリネットを吹いてきました。私、あの音が大すきで、はたらくようになってから、古道具屋に下がっていたのを買って、吹くことをおぼえました。こんど、野原へいってきかせます。」

李さんが、休みの日には、源さんが出かけなければならなかった。二人が、クラリネットを持って、そとへいくような日は、ついにこなかったのでした。

ある日、李さんは一人で土手の上でクラリネットを吹いていました。もう、夏もいくころで、空には、赤い花びらをちらしたように、雲が美しく飛んでいました。

ちょうど良ちゃんと清ちゃんが、川を後にして、釣りから帰ってくる途中でした。二人は話しながら、いい音のする方へ、土手を上って近づいてきました。

「あっ、だれだと思ったら李さんか、うまいんだなあ。」と、良ちゃんは、感心しました。

「もう一つ、なにか吹いてきかせておくれよ。」と、清ちゃんがたのみました。すると李さんは、しずかにくれていく、遠い空の方をながめながら、「ぼうやはいい子だ、ねんねしな」の子守唄を吹いてきかせました。二人の少年は、じっと耳をすましてきいていました。バケツを下に置いて、さおを肩にかついだまま、お母さんに抱かれていたころを思い出すように……。

それから、三人は、話しながら、お家の方へ帰っていきました。

「僕は、学校で会があると、ハーモニカを吹くんだよ。」と、良ちゃんが、いいました。

「李さん、良ちゃんはうまいんだよ。」

「こんど、クラリネットと合わせてみようか。」

「ほんとうに、吹いてみよう。」

秋のはじめでした。源さんに、召集令が下りました。

「どうか、家のことはあんじないで、お国のためにはたらいてください。」と、近所の人々が、源さんにいいました。

「一命をささげて、ご奉公いたします。」と、源さんは、誓いました。

それから後のことです。源さんの家では、お菓子屋をはじめました。李さんは良ちゃんに、

「どうだ、一つジンタになって、店のひろめをしてやろうじゃないか。」と、いいました。

「ああ、それがいい。」と、良ちゃんは賛成して、清ちゃんにも相談しました。

冬空の下に、クラリネットと、太鼓と、ハーモニカの音が、いりまじって聞こえました。中でも調子の高いクラリネットの音は、光った雲にまでとどくようでした。

町の人々は、戸口へ出てみると、先に立って歩いているのは李さんです。背中に大きな紙を下げていました。それには、

「銃後をまもるために、菓子屋を開きました。みなさん、ごひいきにしてください。」と、書かれ、その下に番地と店の名がしるしてありました。李さんのつぎに、半ズボンをはいた良ちゃんが、ハーモニカを鳴らし、その後に、大太鼓をたたく清ちゃんがつづきました。大太鼓は、町会から借りたものです。

折から西日のさした町の内は、この楽隊の音で、いっそう明るく見えました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　12」講談社
　　1977（昭和52）年10月10日第1刷発行
　　1982（昭和57）年9月10日第5刷発行
底本の親本：「夜の進軍喇叭」アルス
　　1940（昭和15）年4月
初出：「せうがく三年生」
　　1940（昭和15）年2月
※表題は底本では、「クラリネットを吹《ふ》く男《おとこ》」となっています。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：酒井裕二
2016年9月9日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

クラリネットを吹く男

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/